



第44週の発生動向 (2004/10/25 ~ 2004/10/31)

- 1 手足口病については、先週に引き続き上十三保健所管内で**警報**が出ており、更にむつ保健所管内でも**警報**が出されたことから他の地域についても注意が必要です。
- 2 水痘については、弘前、上十三保健所管内において、報告数が増えているため注意が必要です。

第44週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ															
(60) 咽頭結膜熱															-5
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	0.63	14	1.40	5	0.56			4	0.67	2	0.50	30	0.71	5
(62) 感染性胃腸炎	19	2.38	12	1.20	4	0.44	2	0.40	7	1.17	14	3.50	58	1.38	9
(63) 水痘	7	0.88	15	1.50	10	1.11	2	0.40	14	2.33	3	0.75	51	1.21	24
(64) 手足口病			1	0.10	28	3.11	3	0.60	25	4.17	27	6.75	84	2.00	26
(65) 伝染性紅斑			4	0.40									4	0.10	±0
(66) 突発性発疹	3	0.38	5	0.50	9	1.00	2	0.40	3	0.50	5	1.25	27	0.64	-1
(67) 百日咳															
(68) 風しん					1	0.11							1	0.02	±0
(69) ヘルパンギーナ	5	0.63	2	0.20	1	0.11	2	0.40					10	0.24	5
(70) 麻しん(成人を除く)															
(71) 流行性耳下腺炎	7	0.88			9	1.00	1	0.20			1	0.25	18	0.43	-3
(73) 急性出血性結膜炎															
(74) 流行性角結膜炎							2	2.00					2	0.18	±0

	定点数			
	インフル エンザ	小児科	眼科	基幹
青森	13	8	2	1
弘前	15	10	3	1
八戸	14	9	2	1
五所川原	7	5	1	1
上十三	9	6	2	1
むつ	6	4	1	1
合計	64	42	11	6

インフルエンザ定点については、内科定点と小児科定点を合わせたものです。

■ は注意報 ■ は警報です。 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (16年計には、今回届出された人数を含む)

(59) RSウイルス感染症(五類定点把握疾患) 弘前保健所管内: 8人 合計8人 (16年計 64人)

感染症の窓

野兔病 ( Tularemia )

**最近の話題** カナダ国内で販売されたハムスターにおいて野兔病の感染が確認されたという報告がありました。平成15年には年間約50万匹のハムスターが日本国内に輸入され、その殆どが欧州からでした。今回の野兔病が確認されたハムスターも含め、カナダからの輸入は認められませんでした。本件に関係したハムスターによる人の健康危害は確認されていません。

**病原体** *Francisella tularensis*. グラム陰性の0.2~0.7µmの小さな球桿菌。鞭毛はなく芽胞は作りません。培養した菌は著しい多形性を示します。培養時間の長いものでは巨大球菌形、ソラマメ形、突起を出したものなど様々な形態を示します。35~37 が至適発育温度で、56 10分の加熱で死滅します。

**発生疫学** 北半球に広く分布し、日本では東北、関東地方に存在しましたが、近年、発病者は稀です。自然界では兔をはじめ多くの動物がこの菌の宿主となります。マウス、家兔、ハムスター、モルモット等が高い感受性を示します。

**臨床症状(ヒト)** 潜伏期間は1~10日です。突然の悪寒、発熱(39~40 )、頭痛、筋肉痛、菌の侵入部位に近いリンパ節の腫脹と疼痛などの症状を示しますが、マウス等の動物の症状と比べると軽症であり、抗生物質で治療可能です。また、本菌が侵入した皮膚(傷口や咬まれた部位)に潰瘍ができることもあります。ヒトからヒトへの感染はありません。

**臨床症状(マウス、ハムスター等)** 身を縮ませ、毛を逆立てるなどの症状を呈した後に死亡したという報告はありますが、症状から本菌を疑うことは難しく、動物取り扱い業者等で通常より死亡する例数が増えた場合は獣医師、保健所等に相談することをお勧めします。

**感染経路** 保菌動物の組織や血液との接触、マダニやアブなど節足動物の刺咬により感染します。ハムスターに限らず、ヒト以外の動物は**特有の病気や病原菌**を持っていることがあるので、動物園、ペットショップ、家庭などで**生き物を触ったり、動物用ケージの掃除の後などは手指を丁寧に洗う**ことが大切です。